dCS

Verdi La Scala

Upsampling SACD Transport

取扱説明書

株式会社 太陽インターナショナル

〒103-0027

東京都中央区日本橋 2-12-9 日本橋グレイス 1F

Tel：03-6225-2777　Fax：03-6225-2778

<URL> http://www.taiyo-international.com

目次

はじめに

製品の概略

dCS ヴェルディ ラ・スカラはオーディオファイルから絶賛されているヴェルディから進化した、SACD アップサンプリング・トランスポートです。

ラ・スカラは SACD、ハイブリッドディスクを演奏し、IEEE1394 を通して DSD データを出力します。その出力は dCS エルガープラス、1394 端子のあるディーリアスに接続し、広帯域、高音質の再生を行います。

DSD はシングルビットデータでサンプルレートは 2.822kS/s です。このフォーマットはオーディオ帯域を通常の CD では 20kHz までと設定されているところを、100kHz 以上までに拡張させるフォーマットとなっています。帯域を拡げることによってトランジェントレスポンスをよりシャープに、また位相特性を改善し、結果としてナチュラルな音質で正確なイメージングを描きます。

16ビット、44.1kS/sのCDデータはAESインターフェイス、3個のSPDIF（RCA, BNC, TOSリンク）、SDIF-2 インターフェイスによっても出力されます。SACD を演奏の場合、この端子からはダウンサンプルされたデータが出力されます。

ラ・スカラはワードクロック入力を装備しています。ワードクロック入力に、マスタークロック・ヴェローナ、dCS DAC をマスターモードにして入力することで単一クロックによる同期をとることができます。同期をとることによってデジタルシステムにおける音質劣化の最大要因であるジッター歪みがシステム全体で減少します。

ラ・スカラは dCS D/A コンバーターとの併用によって、非常にフレキシブルなデジタルオーディオプラットフォームとなり、FPGA や DSP 等のソフトウェア環境設定チップの広範囲な使用を可能にします。これによって内部ソフトウェアを dCS CD、PC 等からアップデートできるという大変有益な機能を備えているのです。

レーザー放射の危険について

dCS ラ・スカラは US FDA21CFR 項 J. をクリアするクラス 1 レーザー製品となっています。US FDA アソシエーション番号は 0211117 です。通常の使用においては、レーザー放射に依る危険はありません。

重要：金属のトップカバーは dCS の認定したサービスによってのみの取り外しが許可されています。このカバーはご使用になるオーディオファイルをレーザー放射や電気的なショックからお守りするためにあります。

ご使用になる前に（安全にお使いいただくために）

本機をご使用になる際には、安全上のご注意をよくお確かめ下さい。
以下の注意事項は安全にお使いいただくために大切な内容です。必ず守るようにして下さい。

⚠ 警告：誤って取り扱うと、死亡や重傷などに結びつく可能性があります。
⚠ 注意：誤って取り扱うと、傷害又は物的損害などの発生に結びつく可能性があります。

［設置上のご注意］

⚠ 警告

・定格電圧ＡＣ 100V にてご使用下さい。
・付属の AC 電源ケーブルは、本機専用ケーブルですので他の機器に使用しないで下さい。
・ケーブル等の接続はこの取扱説明書に従って確実に行って下さい。不完全な場合には接触不良を招き、火災の原因になります。
・ＡＣ電源ケーブルをコンセントから抜くときは、プラグを持って抜いて下さい。コードを無理に引っ張ったりして抜くと断線又は接触不良を招き、感電や火災の原因になります。
・ＡＣ電源ケーブルを無理に折り曲げたり、引っ張ったり、ねっじったり、継ぎ足す等の加工は行わないで下さい。火災や感電の原因になります。
・本機の改造や部品の変更は絶対しないようにして下さい。火災や感電、故障、ケガの原因になります。
・水など塗れた手で電源ケーブルを抜き差ししないで下さい。感電の原因になります。
・本機内部に水をこぼしたり、ピン等の金属類を入れないで下さい。感電や火災の原因となります。
・万一、煙が出たり変な臭いがするなどの異常状態が起きた場合は、すぐにＡＣ電源ケーブルを抜き、異常状態がおさまったことを確認してからお買い求めの販売店、又は当社サービス課まで修理を依頼して下さい。そのまま使用すると、火災・感電の原因になります。

⚠ 注意

・本機を設置する際にはこの取扱説明書に従って確実に行うようにして下さい。
・本機の取り出し、及び設置する際には細心の注意をし、慎重に行うようにして下さい。落下等でケガや物損を招く原因になります。
・湿度の多い場所で使用しないで下さい。結露等により故障の原因となります。
・ゴミやホコリの多い場所では使用しないで下さい。
・室内温度が５℃～４０℃の範囲でご使用下さい。
・振動が多く、水平でない場所には設置しないで下さい。機器の落下等でケガや物損を招く原因になります。
・オーディオラック等に納めてご使用になる場合、通風をしっかり取るなど熱のこもりには充分注意して下さい。故障の原因になる場合があります。

［お手入れについて］

・本体の汚れは、柔らかい乾いた布（シリコンクロス等）で軽く拭き取ってください。ベンジンやシンナーなど揮発性の薬品のご使用は、絶対におやめください。本体の表面が変質する恐れがありま

⚠ 注意

・リアパネルの端子等のお手入れの際には、必ずＡＣ電源ケーブルを抜き電源をお切り下さい。感電の原因となることがあります。

初めてのラ･スカラ

使用前に本項および「順序」（P.9）をぜひお読みください。ハイファイシステムにラ･スカラをセットするための最短距離です。

梱包

ラ･スカラ製品の梱包には下記の物が入っています。

・ラ･スカラ本体
・マニュアル
・コントロールサマリー
・パワーケーブル
・ヒューズ（スペア）
・リモートコントロールユニット
・単四電池　３本
・専用ドライバー
・IEEE 1394 ケーブルアセンブリー
・BNC ケーブル
・2.5mm 六角レンチ（輸送ネジ用）
・天板
・ボルト＆プラスチックワッシャー　４個
・4mm 六角レンチ（天板用）

重要：搬送の際、ドライブ・メカニズムにダメージを与えないよう、４個のネジでドライブを固定してお送りしています。設置の際にはこのネジを取り外し、トップグラス・プレートを取り付けてからご使用下さい。（P.37 参照）

上記リストに照らし合わせて内容を点検ください。損傷があったり、部品の欠品があった場合にはすぐに販売店にお知らせください。本機の梱包材は箱を含め保管なさることをお願いします。

ラ･スカラの保証カードは愛用者カードでの登録後、お手元にお届けいたします。

安全のための注意

ラ･スカラのサービス用パーツは供給されておりません。ユーザーご自身で本体の分解、または内部をあけることなどは危険です。本機自体が不具合である場合には販売店にご相談ください。

重要：パワーケーブルによって本機はグランドアースをとらなければなりません。

AC 電圧設定

初めてラ･スカラをセットするとき、ご使用の電圧と合致しているか再度ご確認ください。本機は 50 ／ 60 サイクルどちらにも対応します。リアパネルの AC 入力部の下に電圧表示があります。万一ご使用の電圧と表示が異なる場合には決して本機をご使用しないで下さい。電圧が異なる場合、致命的な損傷をラ･スカラに与えてしまいかねませんし、それは保証の対象外となります。また電圧変更をご自身でなさらないでください。

重要：常識的な AC ケーブルをご使用ください。一部のオーディオファイル用パワーコードは必要以上に重く、入力部を破損しかねません。この場合には保証対象外となりますので、十分ご注意ください。

設置

デジタルソースに適切に接続されるよう、ラ･スカラをしっかりとした共振の無いベースに設置ください。ラ･スカラを同時に使用するチューナーやアンプの直接すぐ上かすぐ下に設置することは避けて下さい。

このマニュルについて

ラ･スカラを初めてお使いの方は、「初めてのラ･スカラ」（P.6）の項をご覧ください。

表示、フォントの意味

一部の文字フォントや表示が通常の文字ではないところがあります。

・アンダーラインは他の項をご参照になることをお勧めしています。
・**青**：ハードウェアの項でコントロールとコネクターについての記載
・**黒で囲まれた白抜き**：代替コントロール機能（例　メニュー操作）
・**ピンク**：メニュー　頁、またはセッティング
・**グリーン**：ディスプレイ表示
・**赤**：インジケーター

重要事項

重要事項はイタリック（斜体）で書かれています。このイタリック体（斜体）の項を無視した場合には本機に損傷を与えてしまったり、保証の対象外となることがありますので、十分ご注意ください。

このマニュアルは皆様のお役に立つべく十分期を配りまして用意致しましたが、お気ずきの点がありましたら、どうぞ当社までご連絡いただきたく存じます。よりわかりやすいマニュアルにしてまいりたく存じます。

サンプルレート

このマニュアルのサンプルレートの表記はkS/s（キロサンプル／秒）で書かれています。kHzとは技術的には正しくありません。

順序

基本的なオペレーションのためのステップバイステップセッティング（順序）をご説明します。ラ・スカラをしばらくお使いになっていらっしゃらない場合には、ご確認の意味でも役に立つ項目と存じます。

最初に

コントロールサマリーシートはメニュー構築構造とフロントパネルコントロールのアウトラインが書かれています。より詳しくは「ソフトウェアメニュー」（P.16）の項をご参照ください。

デジタルインターフェイスの為に、デジタルオーディオ用にきちんと設計されているケーブルをご使用ください。

・AES/EBU インターフェイスには 110 Ω、ツィステッドペア、XLR(M)-XLR(F) コネクターでご使用ください。
・SPDF、ワードクロック、またはSPDF BNCインターフェイスには75 Ωコアキシャル BNC ケーブルをご使用ください。
・SPDF RCA インターフェイスには75 ΩコアキシャルRCA フォノプラグで端末処理されたケーブルをご使用ください。
・TOS リンクオプティカルインターフェイスには TOS リンク光ファイバーケーブルをご使用ください。
・ST オプティカルインターフェイスには、ST スタイルファイバー光ケーブルをご使用ください。
・IEEE1394 インターフェイスには IEEE1394 ケーブルをご使用ください。本機に付属しています。

下記の通りに行ってください。

● ラ・スカラ・リアパネルにパワーケーブルを接続、パワー入力部にあるパワースイッチをオンにする。（ | の位置にする）

重要：必要以上に重く太いケーブルは入力ソケットを損傷する場合がありますので、ご使用にならないで下さい。この入力ソケットの損傷は保証の対象外です。

● **Power** ボタンを押して約 5 秒間待つ。ラ・スカラが自身でシステム設定を行う。

ディスプレイは次の順で表示されます。**La Scala**, **0** 次に **No Disk**

もし本機が通常の状態を表さない場合には、次のようにリセットできます。

● **Menu**（メニュー）ボタンを一回押し、**Step Back**（ステップバック）ボタンを **Factory**（ファクトリー）が表示されるまで押していく。次に **Select** を押し、本機が再起動するまで待つ。

PWR インジケーターが点灯し、その他全て消灯します。

STEP 1：デジタル入力の選択

ラ･スカラと DAC には２本のケーブルで接続するだけです。ラ･スカラは IEEE 1394 入力を装備したエルガープラスやディーリアスと互換性があります。
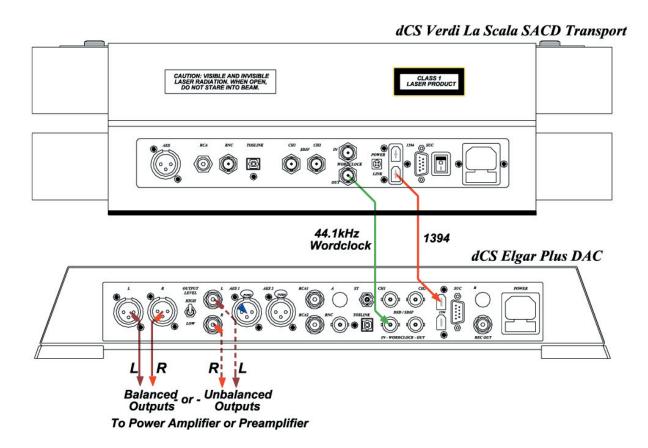
図１：ラ･スカラとエルガープラスとの接続

1394 インターフェイスを接続する

SACD、ハイブリッドディスク、CD を演奏すれば、DSD データは２つの 1394 コネクターのどちらも DSD データを送信します。このデータは 1394 端子を装備したエルガープラス、またはディーリアスによって解読されます。

● DAC を **1394** モードにセットする。
● 付属の IEEE1394 ケーブルをラ･スカラの **1394** コネクターに接続する。（２つのうちのどちらの 1394 端子でもかまいません）
●ラ･スカラの **Wordclock Out**（ワードクロック出力）を DAC のワードクロックインに接続する。

重要　２系統あるラ･スカラ 1394 コネクターを両方とも一機の DAC に接続しないこと。IEEE1394 のシンクロ動作を妨げます。

DAC 出力との接続

- DAC アナログ出力を適切なプリアンプまたはパワーアンプのインプットと接続する。パワーアンプとスピーカーと接続する。
- プリアンプまたは DAC のボリュームコントロールを最小レベルにセットする。
- すべてのシステムコンポーネントが動作可能状態（オン）になっていることを確認する。

このセットアップは図 1 に表示されています。

PCM 出力の接続

ほとんどの CD は 1394 インターフェイスでアップサンプルされたデータを送信した方が良い音質が得られるでしょう。標準の CD データはすべての PCM アウトプットからも出力されますので、CD をそのまま演奏することもできます。

- ラ･スカラ リアパネルの **AES**,**RCA**,**BNC**,**Tosliink** アウトプットのご使用になる出力と、マッチする DAC のインプットとを適切なケーブルで接続する。
- **SDIF-2** をご使用の場合には、ラ･スカラのリアパネル、**CH1** と **CH2** アウトプットと、DAC の入力とを適切なケーブルで接続する。またラ･スカラのリアパネル **Wordclock Out** と DAC の Wordclock In とを接続する。

STEP 2：ディスクを演奏する

● **Stop/Eject** ボタンを押す。

ディスプレイは **Opening** と表示し、次に **Open** と表示します。

● トレイにディスクを載せ **Eject** ボタンを押すか、トレイ自体を軽く押すとディスクがロードされる。

ディスプレイは **Loading**（ローディング）と表示され、、続いて **Read TOC**（ディスクを読み込み中）と表示されます。ディスクは CD、SACD またはハイブリッドかが認識されます。**CD**、**SACD** のどちらかのインジケーターが、**CONT** インジケーターとともに点灯されます。（全トラックを連続して演奏します）

ハイブリッドディスクの場合、**HYBD** インジケーターが点灯し、**SACD**、**CD** インジケーターのどちらかが点灯します。リモートコントロールの **SACD/CD** ボタンによって選択できます。インジケーターは選択にあわせて点灯します。

ディスクがディスクテキストを含んでいる場合、**TEXT** インジケーターが点灯、ディスクタイトル、アーティスト名などがディスプレイにスクロールされます。すべての一般的なディスクの場合、トラックナンバー、総演奏時間が表示され、それに続いて **0**（ストップ）と表示されます。

● DAC の 1394 インプットを選択する。
● DAC がロックしミュート解除まで待つ。
● **Play** ボタンを押す。適当なレベルまで、ボリュームをあげる。

この時点で演奏が聞こえる状態です。
ディスクがディスクテキストを含んでいる場合、局名がディスプレイにスクロールされます。すべての一般的なディスクの場合、トラックナンバーと経過時間が表示されます。

● **Play/Pause** ボタンを押すと演奏は一時停止状態となる。演奏を続けるにはもう一度押す。
● **Next Track**、**Previous Track** ボタンを押すことにより、演奏は他のトラックに移動する。
● **Next Track**、**Previous Track** ボタンを押し続けると、そのトラック内で早送り、巻き戻しができる。もう一つの方法は **Rotary Control**（ロータリーコントロール）を廻す。
● 演奏を停止させるには **Stop/Eject** ボタンを押します。再度押すことによって、トレイが開く。

STEP 3：トラックの選択

トラックを変えるには

● リモートコントロールの Keypad ボタンを押す。

● 白色 LED が転倒している間に数字ボタン（0 ～ 9）ボタンを押す。

● たとえば、15 トラックにするには、1 を押し、3 秒以内に 5 を押す。

トラック順序をプログラムする

31 トラックまでのプログラムをご希望の場合、任意の順序でプログラムできます。プログラムを希望しない場合は Step 4 へ進んでください。

● ディスクを入れ、再生中でないことを確認。この状態でテキストなどがディスプレイにスクロールされるのを待つ。

● リモートコントロールの Program ボタンを押す。白色 LED が点灯している間に、数字ボタン（0 ～ 9）によって、最初のトラック番号を押す。（例：05）

PROG インジケーターが点灯し、ディスプレイは Prog 05 と変更します。その後、Pg 1: 5 となります。

● トラック番号を選択するには Previous Track/Next Track ボタンで選択することも可能。

● Program ボタンをもう一度押し、２番目のトラックを選択する。（例：12）ディスプレイは Prog 12、次に Pg 2: 12 と表示される。希望するトラック番号をこのようにして次々に選択していく。最大３１トラックまで選択可能。

No Trk! が表示されたときは、そのディスクにないトラック番号を押したときです。

● 最後に選択したトラック番号を削除するには、Clear（クリア）ボタンを押す。

ディスプレイはその前の番号に戻り、それが入力した順序の最後のトラックです。

● Play（プレー）ボタンによって、プログラムされた順序で演奏する。

● プログラム順の演奏を停止しランダムに切り替える、または連続再生モードにする場合、Play Mode（プレーモード）ボタンを押す。

トレイが開くとプログラムした順序は消去されます。

全トラックをランダムに再生する

ラ･スカラはディスクのトラックすべてをランダムに再生することもできます。その後停止します。

● Play ボタンを押す。

● リモートコントロールの Play Mode（プレーモード）ボタンをディスプレイが Shuffle（シャッフル）そして RAND（ランダム）インジケーターが点灯するまで、１～２回押す。

STEP 4：リピート順の設定

ラ･スカラはディスク全体のある特定のトラックか、トラックの一部をリピートすることができます。
希望しない場合には他の設定にお進みください。

全体のディスクをリピートする

- ディスクが連続モードで演奏されているとき（CONT インジケーターが点灯）に、リモートコントロールの Repeat（リピート）ボタンを押すとディスク全体がリピートされる。

ディスプレイには Rept All と表示され、REPT インジケータが点灯します。

トラックのリピート

- トラックを連続モードで演奏しているとき（CONT インジケーターが点灯）に、リモートコントロールの Repeat（リピート）ボタンを２度押すとそのトラックがリピートされる。

ディスプレイは Rept Trk と表示され、REP1 インジケーターが点灯されます。

トラックの一部をリピート

- トラックの一部をリピートしたいときは、リピートしたいところまで演奏する。リモートコントロールの A-B ボタンを押す。ディスプレイは、たとえば AB 0:20 と表示し、B が点滅する。リピートする最終部分にきたときに（例えば 10 秒後ですが）A-B ボタンを再度押す。B は点滅を停止する。本機は開始点までスキップし終了点まで何回もリピートする。この A-B ボタンによる上記の動作を行うことによって、新たな開始点と終了点を選択することができる。

リピートモードのキャンセル

- リピートを停止させるときは、リモートコントロールの Repeat（リピート）ボタンを何度かディスプレイが Rept Off（リピートオフ）と表示するまで押す。

他の設定

メニューによりより多くの機能が選択できます。メニューの項（P.16）を参照してください。

典型的使用例

DA コンバーターをマスターモードで使用する

dCS DAC をマスターモードで使用し、トランスポートのクロックと同調することにより、システムのジッターを減少させることができます。図２の通りに接続します。
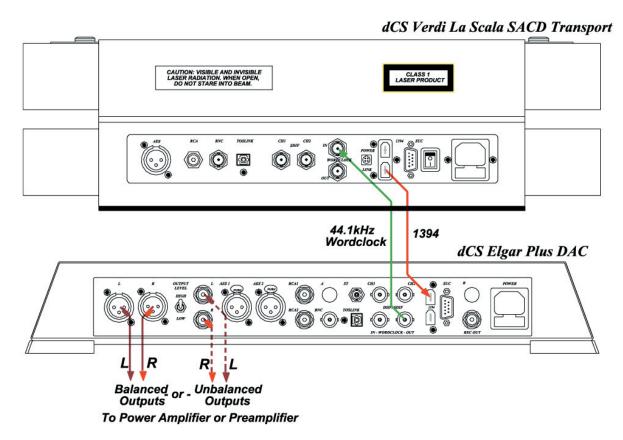
図２：DAC をマスターモードで使用する接続

重要：Wordclock 接続は図１の場合と異なる点にご注意

エルガープラス　ヴァージョン 4.2x 以降の設定

- 初めてこの接続を行う場合には､メニューを開き Factory にして工場出荷時の初期設定にする。
- SACD を再生する場合、Input ボタンを 1394 に指定する。メニューを再び開き、必要なら Filter（フィルター）を選択する。その後、MS ページに進み、MS:Mastr（マスター）に設定する。
- システムが再びロックされたら、最適レベルまで Volume（ボリューム）を上げる。

ソフトウェアーメニュー

メニューを進めるには **Step >** を押し、戻るには、**< Step** を押します。
メニューオプションを設定、変更するには **Select** を押します。
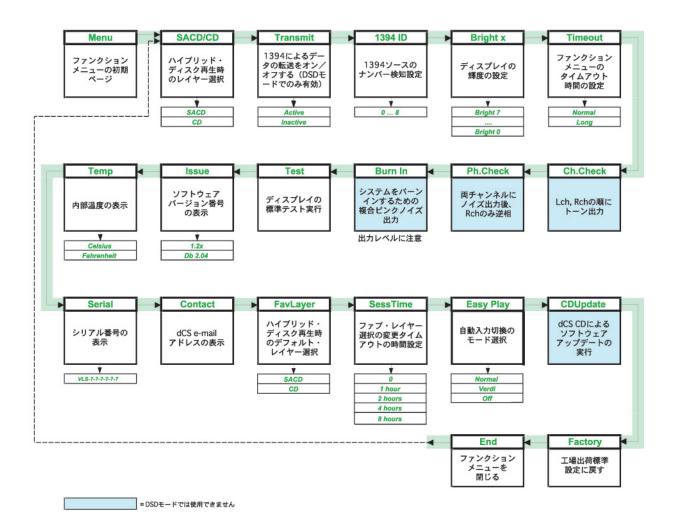
図３：ファンクションメニューのフローチャート

メニューの使用

メニューは様々な機能にアクセスすることが可能です。また、新しいバージョンのソフトウェアによるアップグレードを行うことによって、新機能を追加することが出来ます。

メニューを開く

メニューは２個のボタンによってコントロールします。

・Menu ボタンを押すとメニューを開くことができ、Select ボタンの機能も行います。
・Step →ボタンはメニューページを先に進みます。- Step ボタン
・← Step ボタンはメニューページを戻ります。- Step Back ボタン

最初にメニューを開くとディスプレイは Menu と表示されます。
連続して Step ボタンを押すとメニューのページを進みます。直接特定のページにはいけません。メニューの最初から入り、目的のメニュー項目までページを進めていきます。

メニューページの様式

メニューには３つのタイプがあります。パラメター、インフォーメーション、テストのページです。

パラメターページは現在のセットされているパラメターのチェック、変更を行います。例えば、Bright（輝度）の場合、パラメターページが表示されている場合に一度目の Select ボタンは現状のセッティングを表示します。次の Select はページセッティングの変更となります。

インフォーメーションページはその機器の情報を表示します。たとえば Issue（ソフトウェアのバージョン）などです。Select を押すことによってそのページにある情報が表示されます。

テストページはユーザーが使用する上で役に立つページです。例えば、Test です。テストページが表示されている場合、Select ボタンで、テストがスタートします。

メニューを閉じる

メニューを終えて通常動作に戻るには２通りの方法があります。簡単な方法は５秒待って、タイムアウトし、標準ディスプレイに戻る方法です。もう一つの方法は Step ボタンを End まで押す方法です。その時点で Select を押せば動作状態に戻ります。

本機が希望の機能を設定する前にタイムアウトした場合には、メニューを再度開きます。ページを進めるか戻すかしてやり残したところまで進みます。もし５秒のタイムアウトが短すぎる場合には、Time Out セッティングによって時間を変更できます。

メニュー順序

図３（P.16）のフローチャートをご使用になるか、コントロールサマリーシートをご覧になればメニューがよりご理解いただけます。

次はメニュー <*1> に表示されるファンクションメニューを順に説明していきます。操作に慣れてきたら、メニュー <*1> を閉じる前に、一度に行うことが便利とお思いになるに違いありません。

<*1> 一部のソフトウェアアップデートはメニューアイテムの順序を変更するか、オプションを追加するかも知れません。これが発生したら、マニュアルより前にコントロールサマリーシートがアップデートされているのです。

SACD/CD –ハイブリッドディスクのレイヤーの設定

ハイブリッドディスクを挿入、再生する場合、（HYBD インジケーターが点灯）メニューにより、CD、SACD レイヤーの選択ができます。リモートコントロールの SACD/CD ボタンによっても選択できます。

- メニューを開き、SACD/CD ページまで進む。
- Select（セレクト）ボタンを押し、SACD または CD を選択する。
- 選択終了後メニューのタイムアウトを待つ。ディスプレイは通常の表示に戻る。

ディスクがハイブリッドではない場合にはメニューはディスクのタイプは表示しますが、設定変更はできません。

Transmit – 1394 出力を有効にする

現在 IEEE1394 インターフェイスは８系統の DSD ソースに対応しています。もし、８系統以上がバスに接続されている場合にはそれ以上の数を動作させせることはできないでしょう。この状況は業界標準が安定するにつれて進化していきます。Transmit ページでは、1394 インターフェイスが DSD モードに対応している場合には、DSD/SACD 出力モードにすることができます。大多数のケースではこのモードに煩わされることはないでしょう。

- 1394 インターフェイスが少なくとも他の機器に接続された状態で、ラ･スカラを DSD/SACD モードに設定する。
- メニューを開き Transmit ページまで進む。
- Select ボタンを押して、Active, Inactive を選択する。
- 選択した後、メニューのタイムアウトを待つ。ディスプレイは通常のモードに戻る。

1394 ID – 1394　ソースの ID 番号

１～８までの番号によって接続したラ･スカラの 1394 システムの ID 番号を設定します。
（複数のラ･スカラなどを同時に８機まで接続した場合を想定しています。）

- メニューを開き、1394 ID:x のページまで進む。x には０～８までの数字が入る。
- Select ボタンを繰り返し押し、数秒本機が決定するまで待つ。ディスプレイには 1394 ID:0, 1394 ID:1,………,1394 ID:8 まで進み、また 1394 ID:0 に戻る。

例えば、1394 ID:2 にセットする場合、DAC がこのラ･スカラに接続されている場合には、DAC には La Scala 2 と表示されます。1394 システムで接続されている他のラ･スカラは他の ID 番号を選択する必要があります。1394 ID:0 を設定した場合、DAC は番号のない La Scala を表示します。

Bright x –ディスプレイの輝度

メインディスプレイの輝度を 7（もっとも明るい）から 0（消灯）まで調整することが出来ます。

- ファンクションメニューを開き、ディスプレイが **Bright x**（“x” は 7 ～ 0 の番号）と表示されるまで進む。
- **Select** ボタンを繰り返し押すと、Bright 7, Bright 6, …… , Bright 1, Bright 0, Bright 7, と変わる。

Bright 0 に設定した場合、タイムアウト後本機がロックしていればディスプレイは消灯します。何か操作したり、ソースにロックしようとしているときにはディスプレイは一瞬点灯します。

TimeOut –メニューのタイムアウト設定

5 秒のタイムアウト時間がメニュー選択に対して短すぎる場合にはこの機能によって、30 秒まで変更することができます。

- メニューを開き **Timeout**（タイムアウト）まで進む。
- **Select** ボタンを一度押すと表示は **Normal**（ノーマル）になる。
- もう一度 **Select** ボタンを押すと表示は **Long**（長時間）に変わる。
- 変更希望の場合にはこの動作を繰り返し選択する。

Ch.Check –チャンネルチェック・テスト

ステレオシステムの出力が正しく接続されているかのテストを行います。DSD/SACD モードで不作動になります。

- 最適な音量で音楽演奏にする。
- メニューを開きディスプレイが下記の表示が出るまで進む。

  Ch.Check

- **Select** ボタンを一度押し、テストをスタートさせる。**Wait** と短期間表示されたら、次の順序で表示されます。

  Left

  数秒間左チャンネルから混調波が聞こえる

  None

  1 秒間両チャンネルミュートとなる

  Right

  数秒間右チャンネルから混調波が聞こえる

  Done

  テスト終了後に一瞬この表示となる

もしチャンネルが反転されていれば、本機以下のケーブル接続をチェックしてください。一時的に Swap（スワップ）機能を使用した後電源を切れば、この設定は記憶されないことを思い起こしてください。

Ph.Check –フェーズチェック

各チャンネルの位相が正しく出力されているかどうかのテストです。DSD/SACD モードでは動作しません。

- 適当な音量で音楽を演奏にする。
- メニューを開きディスプレイが下記の表示が出るまで進む。

Ph.Check

- Select ボタンを押しテストをスタートさせる。

Wait（お待ちください）と短時間の表示の後以下のような順でディスプレイに表示されます。

Normal

正相ノイズが両チャンネルから数秒出る

None

1 秒間無音になる

Inverted

右チャンネル逆相の信号ノイズが数秒出る

Done

テスト終了後に一瞬この表示となる

両チャンネルとも位相が正相であれば、最初のノイズテストでイメージは中央に表れ、二度目のノイズテストでは中央に表れず広がってしまいます。逆相になっている場合には最初のテストではイメージははっきりせず、２度目のテストで中央に現れます。

位相のエラーがあった場合、本機の出力以降の接続を確認してください。dCS DAC Phase（位相）機能によっての位相補正はできません。

Burn In –バーンイン

重要：システムのバーンイン（慣らし運転、日本ではエージングと言われます）を行う前にこの項の各ステップを必ずお読みください。バーンイン動作は出力信号を最大ボリュームで流します。スピーカーの損傷を防ぐために、あらかじめシステムのボリュームをゼロにしておいてください。

システム全体をバーンインするために混合ピンクノイズを発生させます。DSD/SACD モードでは動作いたしません。

- システムのボリュームを０にする。
- メニューを開きディスプレイが下記の表示が出るまで進む。

Burn in

- Select ボタンを一度押し、バーンインプロセスをスタートする。

ラ･スカラは Caution, Loud という警告メッセージを 20 秒間表示します。その後バーンイン信号がゼロから最大レベルまで上がっていきます。その間約 10 秒です。

ディスプレイは Burn in, Caution, Loud を Burn in（バーンイン）を行っている間、繰り返し表示します。

スピーカーをバーンインする場合、システムのボリュームを適切なレベルにセットして下さい。バーンインの適切な時間に関しては、システムコンポーネントの製造者または代理店にご相談ください。

● バーンイン信号を止めるには、**Step**、**Select** ボタンのどちらかを一度押す。ディスプレイは “**Done**”（終了）と表示される。

Test – ディスプレイテスト

ディスプレイが正常動作しているかのテストです。

● メニューを開き **Test**（テスト）の表示まで進む。
● **Select** ボタンを一度押しテストをスタートさせる。
・メインディスプレイが点灯し、下から上へ消灯していく。
・インジケーター LED が順に従って短時間点灯する。
・全てのインジケーターがメインディスプレイの小さい正方形とともに点灯する。
・ディスプレイは “**Done**”（終了）と表示する。

Issue – ソフトウェア・バージョンテスト

ご使用の機器に適合しているソフトウェアの番号を表示します。ソフトウェアアップグレード、または機器が異常動作を起こしたときに必要な機能です。

● メニューを開き **Issue**（イシュー）の表示まで進む。
● **Select** ボタンを一度押し、ソフトウェアのイシュー番号を表示させる。
● **1394** インターフェイスを装備している機器は **Select** ボタンをもう一度押すと 1394 インターフェイスソフトウェアイシューの表示をする。

Temp – 機器内部温度

この表示は機器の内部、クリスタル発信器付近の温度を表示します。

● メニューを開き **Temp**（温度）の表示まで進む。
● **Select** ボタンを一度押す。華氏表示の温度が表示される。もう一度押すと摂氏温度が表示される。

Serial – 本機のシリアル番号

ハードウェアコードを含むシリアル番号を表示します。これはご使用の機器のソフトウェアをアップグレードするときに dCS にて必要な番号です。

● メニューを開き **Serial**（シリアル番号）の表示まで進む。メモの用意を。
● **Select** ボタンを一度押すと、ディスプレイにシリアル番号がスクロール表示される。

Contact – 連絡情報

dCS の e メールアドレスとホームページ URL を表示します。

● メニューを開き **Contact**（連絡）の表示まで進む。メモの用意を。
● **Select** ボタンを一度押すと、連絡に必要なアドレスがディスプレイにスクロールされる。

FavLayer –ハイブリッドディスク上の優先レイヤーの選択

ハイブリッドディスクには CD、SACD 二層のレィヤーがあります。ハイブリッドディスクを再生する場合、このメニュー機能によって、自動的に希望のレィヤーを選択します。

● メニューを開きディスプレイが FavLayer を表示するまで進む。
● Select ボタンを一度押すと、ディスプレイは SACD を表示する。
● Select ボタンをもう一度押すと、ディスプレイは CD と変更する。
● SACD に戻すにはこの動作を繰り返す。

SessTime –セッションタイムアウト設定

ハイブリッドディスクを再生する場合、リモートコントロールの SACD/CD ボタンにより、一時的に上記ハイブリッドディスク上優先レイヤーの選択設定を変更することができます。上記 FavLayer 設定は次に本機に電源を入れる時、またはこのメニューでセットされたセッションの時間設定後には元の設定に戻ります。

● メニューを開きディスプレイが SessTime を表示するまで進む。
● Select ボタンを繰り返し押すと、ディスプレイは 0, 1 hour（1 時間）, 2 hours, 4 hours, 8 hours, 30 mins を繰り返し表示する。
● ご希望の時間を設定し、メニューのタイムアウトを待つ。

Easy Play –自動ソース選択

Easy Play システムは自動的にシステムのソースを選択します。3 つのオプションがあります。

Normal	ラ･スカラは DAC の 1394 インプットを選択します。これは通常の設定です。
Verdi	スタンダード　ヴェルディと同じ選択を行います。DAC はラ･スカラが SACD を再生しているときは 1394 インプットを選択、CD を再生しているときにはその信号が設定されている PCM インプットを選択します。
Off	すべての選択はマニュアル選択となります。この設定では DAC に複数台のデジタルソースが接続されているときに便利です。

● メニューを開きディスプレイが EasyPlay を表示するまで進む。
● Select ボタンを繰り返し押すと、ディスプレイは 3 種のオプションを繰り返し表示する。希望のオプションが表示されたところでボタンを押すのをやめる。

CDUpdate – CD によるソフトウェア・アップデート

現在の dCS エルガープラス、ディーリアス、パーセル、そしてヴェルディには CD Update メニューページが組み込まれたソフトウェアが入っています。dCS により供給されるソフトウェアを上記の機器では簡単にアップデートすることができます。

標準の CD トランスポート、CD プレーヤー、または dCS ヴェルディが CD をドライブするために必要です。一部の CD プレーヤーは 48kS/s にアップサンプルしたり、ビット数を変換したりして、正確に読み込まないものがあります。このような場合は、ソフトウェアの変更を中止します。

dCS アップサンプラーか DAC をアップデートする場合には次を行います。

- AES または RCA デジタル出力を、トランスポートからアップサンプラーか DAC に接続し、その入力を選択する。1394 インターフェイスの結線は必ずはずしてください。トラブルの原因となります。

CD トランスポートから他の装置を介在して dCS DAC をアップデートする場合

- 他の装置の AES または RCA デジタル出力から DAC に接続し、その入力を選択する。他の装置をビットからビット (bit for bit) モードに設定する。1394 インターフェイスの結線は必ずはずしてください。トラブルの原因となります。

dCS トランスポートをアップデートする場合には、CD をドライブすれば自動的にアップデートします。結線などの手順は不要です

全ての dCS 機器は

- アップデート手順は単純ですのでご安心ください。
- パワーアンプをミュート状態にする。
- dCS Update CD をトランスポートに装着、ストップモードであることを確認する。この CD にはアップデートしようとする機器のソフトウェアが入っている。
- アップデートする機器のメニューを開き、その機器のディスプレイの表示が CDUpdate（CD アップデート）となるまで進む。
- **Select** ボタンを押し、アップデート手順をスタートさせる。

機器はフラッシュメモリーのアップデートに備えて Wait(お待ちください)と表示します。3～4分後、その機器は Please Start CD（CD をスタートさせてください）と表示します。

- トランスポートのプレイボタンを押す。

重要：本機のアップデート準備が整っていないときにはトランスポートを停止させておきます。Play ボタンは押さないでください。これは誤動作の原因となりかねません。また、dCS の CD のみをご使用ください。

本機は CD を検証しその間、Scanning（スキャン）と表示します。

dCS CD に何か誤りがあったり、当該製品にマッチしないものであった場合には Wrong!（誤り）か Wrong CD か No Index と表示され、通常の動作に戻ります。今までのソフトウェアは変更されませんので心配いりません。CD のホコリやスクラッチをチェックしてみましょう。

もし dCS の CD ではないアップデート CD の場合には本機は Please start CD（CD をスタートさせてください）という表示を 30 秒間繰り返すか、Wrong CD と表示され、その後ノーマルな動作状態に戻ります。

データが正しい場合、本機は Track n（トラック n）を表示します。“n” は番号です。

- トランスポートのトラックを n まで進めるか、そのまま放って置いて自動的に移行するのを待ちます。

機器が正しいトラックを発見するまで、Found Track 1（トラック 1 を発見）と表示し、次に Found Track 2... と適合する正しいトラックを発見するまで、表示していきます。Vx.xx がディスプレイに表示されるとこれが新しいソフトウェアの発行番号です。

次に以下のどちらかのフォーマットによってアップデートの進行状況が表示されます。
・ディスプレイは 0% 0/7 から 99% 0/7 までカウントし Copying（コピー中）と表示され、0% 1/7 から 99% 1/7 とカウントし Copying と表示、最後のセクションがコピーされるまでこのように続きます。いくつかのモデルは 8 項目以下のものもあります。
・移動するドットによってゆっくり 3 から 0 までカウントします。

約 15 分後アップデートは終了し、 機器は自分自身で再起動します。

- もし CD がまだ演奏している状態であれば、それを止める。
- 1394 装備にアップデートされた機器であれば、機器が落ち着くまで約 30 秒待ち、それを数秒間オフにする。その後再びオンにする。

もし機器が 1394 インターフェイスコードで変化を感知しない場合、通常のように再起動し使用準備完了状態となります。

もし 1394 インターフェイスコードがアップデートされていた場合、1394 について新しいコードをフラッシュメモリーに取り入れます。この作業に約 10 分を要します。この作業中、本機は進行状態を示すバーを表示します。次に本機は次の順に表示を行います。Done 5, Done 4, ...,Done 1 その後再起動します。

本機は使用準備 OK です。

もし CD トランスポートが途中で止まってしまったり、アップデート中に誤って電源が落ちたりした場合でも、心配はいりません。オリジナルのソフトウェアは機器の中でバックアップされます。次の手順に従ってください。

チェック手順により、エラーを探しにかかり、Non Seq または Bad CD! とディスプレイに表示されます。

- 電源を切って再起動させます。次のメッセージがディスプレイにスクロールされる。
  Bad CheckSum- Press Function Button to attempt Recovery
  Function ボタン（機能）をリカバリーのために押します
  Bad CheckSum- Press Mute button to attempt recovery
  Mute ボタン（ミュート）をリカバリーのために押します
  Bad CheckSum- Press Menu button to attempt recovery
  Menu ボタン（メニュー）をリカバリーのために押します

モデルによって表示が異なります。

- 表示に従ってボタンを一度押す。

オリジナルソフトウェアはこの時点で Wait... と表示されている間に初回のバックアップから復旧されます。数分かかります。リカバリーが完了したら、機器は再起動します。

- もう一度 CD Update の手続きを始めからやり直して下さい。

Factory –出荷時の工場設定にリストアする

この機能は工場出荷時の設定に、ほとんどのパラメターを戻すものです。誤って設定が変更されたり、標準の設定に戻す必要があったとき、またはお子様が不用意にいじってしまったときなどに有効です。

● メニューを開き Factory（工場）まで進む。
● **Select** ボタンでメニューのタイムアウトをさせる。

数秒後に本機は再起動しノーマルな動作設定に戻ります。それは以下の通りです。

・Transmit は Active
・輝度は Bright 4
・1394ID は 0
・Timeout は Normal
・FavLayer は SACD
・SessTime は 0

ハードウェアーコントロール部と接続部

フロントパネル
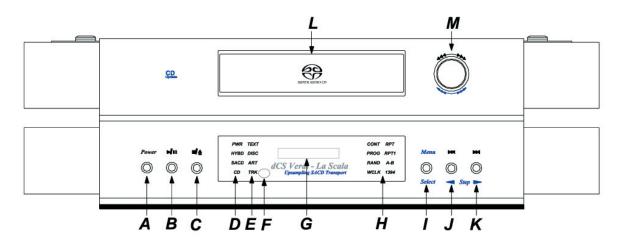
図４：dCS ラ･スカラ　フロントパネル

フロントパネルの名称

A　Power（パワー）およびスタンバイボタン
B　Play（プレイ）ボタンまたは Pause（ポーズ）ボタン
C　Stop（ストップ）ボタンまたは Eject（イジェクト）ボタン
D　Status（状況）インジケーター
E　Display Mode（ディスプレイモード）インジケーター
F　リモートセンサー
G　Main Display（メインディスプレイ）
H　Mode（モード）インジケーター
I　Menu（メニュー）または Select（セレクト）ボタン
J　Previous Track（トラック戻し）／Fast Reverse（早戻し）または Step Back（ステップバック）ボタン
K　Next Track（トラック送り）／Fast Forward（早送り）または Step（ステップ）ボタン
L　CD/SACD トレイ
M　Rotary Control（ロータリーコントロール）

(A) パワーボタン（Power）
このボタンはパワーオン／オフスイッチとスタンドバイモードのボタンとなっています。

● スイッチオンにするには Power（パワー）ボタンを押す。パワーが入ると PWR（パワー）インジケーターが点灯し、ラ･スカラはパワーアップ準備を行う。
スタンドバイボタンはパワーをオンにしたときにクリックしませんが、これは正常です。

● 演奏を終え、Power ボタンを押すと、本機はスタンドバイ状態になる。
出力はミュートされ、PWR インジケーター除いて全て消えます。この状態で本機の消費電力はほとんどありません。電源を切った場合にはスタンドバイモードはキャンセルされます。

● この状態から通常動作に戻すには、Power ボタンを再び押す。
本機は使用可能状態に戻ります。

● 完全にスイッチオフする場合、Power ボタンを押した状態で Main Display（メインディスプレイ）が PwerDn（パワーダウン）を表示するまで数秒押し続け、離す。

(B) プレイ／ポーズボタン（Play/Pause）▶ / ❚❚
● ディスクを挿入し、Play/Pause ボタンを押すと再生をはじめる。もう一度押すとポーズ（一時停止）となり、再度押すことによって停止したところから再生をはじめる。

(C) ストップ／イジェクトボタン（Stop/Eject）■ / ⏏
● ディスクを再生中に Stop/Eject ボタンを押すと再生を停止する。再度押すとトレイが開き、もう一度押すとトレイは閉じる。

(D) 状況表示（Status Indicator）
下記の 4 つのインジケーターで構成されています。。
・PWR（パワー）は電源が接続されて本機電源がオンもしくはスタンドバイモードの状態のときに点灯します。
・HYBD（ハイブリッド）はハイブリッド SACD/CD が検知された場合に点灯します。
・SACD は SACD が検知された場合に点灯します。もしくは SACD ハイブリッドが挿入され、本機が SACD モードに設定されているときに点灯します。
・CD は通常の CD が検知された場合に点灯します。もしくは SACD ハイブリッドが挿入され、本機が CD モードに設定されているときに点灯します。

(E) ディスプレイモード・インジケーター（Display Mode Indicator）
下記の 4 つのインジケーターで構成されています。。
・TEXT（テキスト）はディスクのテキストデータが表示されているときに点灯します。
・DISC（ディスク）はディスクタイトルが表示されているときに点灯します。
・ART（アーティスト）は演奏家の名前が表示されているときに点灯します。
・TRK（トラック）はトラックタイトルが表示されているときに点灯します。

(F) リモートコントロールセンサー
リモートコントローラーをこのセンサーに向けて操作をしてください。

(G) メインディスプレイ（Main Display）
本機の作動状態を示します。
Eject（イジェクト）を押すとディスプレイは Opening（開く）と表示し、トレイを開きます。トレイを閉じるとき、ディスプレイは Loading（ローディング）と表示します。

再生中にリモートコントロールの Display(ξ) ボタンを押すと以下のどれかが表示されます。
・トラック番号と経過時間
・トラック名（テキストデータがある SACD を再生時）
・トラック番号と残り時間
・ディスクの残り時間

ディスクが挿入され、停止状態にある場合、ディスプレイで以下表示選択ができます。
・ディスクの総トラック数と全トラック再生時間
・ディスクタイトル（テキストデータがある SACD を装填時）
・アーティスト名（テキストデータがある SACD を装填時）

(H) モードインジケーター（Mode Indicator）
このインジケーターの上部６個はリモートコントロールで選択された再生モードを示します。
- CONT（継続）は連続モードで、ディスクのはじめから終わりまでを再生します。
- PROG（プログラム）はプログラムモードに設定されている、もしくはプログラム順にトラックを再生する場合に点灯します。
- RAND（ランダム）はランダムに全トラックを再生し、その後停止します。
- REPT（リピート）は全トラック、またはプログラム順にディスクをリピート再生します。
- RPT1（リピート１）は演奏中のトラックをリピート再生します。
- A-B は演奏中の指定部分をリピート再生します。

44.1kHz ワードクロックが本機の Wordclock In に接続されている場合、本機は自動的にスレーブモードとなります。本機がロックしているときに、WCLK（ワードクロック）インジケーターは点灯し、ロック状態で点灯します。44.1k Hz 以外のワードクロック周波数は受け付けません。

SACD 演奏中、本機は IEEE1394 インターフェイス作動状態にあり、1394 インジケーターが点灯します。

(I) メニューボタン（Menu）　（メニュー Select ）
Menu（メニュー）ボタンを押すとファンクションメニュー （P.16）が開き、メニューを変更または設定できます。

(J) トラック戻しボタン（Previous Track）　⏮　（メニュー Step Back ）
(K) トラック送りボタン（Next Track）　⏭　（メニュー Step ）
Previous Track（トラック戻し）ボタンを軽く押すことにより、一つ前のトラックに飛びます。押し続けると再生中のトラックを早戻しします。
Next Track（トラック送りボタン）を軽く押すことにより、一つ先のトラックに飛びます。押し続けると再生中のトラックを早送りします。

メニューを開いているときにはこのボタンにより、メニューを進めたり戻したりします。

(L) CD トレイ（CD Tray）
トレイが開いているときに軽く押しますと、トレイは閉じます。
本機に電源が入っている状態でトレイが開いている時に、Power（パワーボタン）を押すと、スタンドバイモード、または電源を落とす前に自動的にトレイを閉じます。

(M) ロータリーコントロール（Rotary Contorol）
ディスクが停止している時に、Rotary Control（ロータリーコントロール）を時計回りに廻すことにより、先のトラックにジャンプし、反時計方向に廻すことによって、前のトラックにジャンプします。

ディスク再生中、Rotary Control を時計回りに廻すことによってトラックは早送りされ、反時計方向に廻すことによりトラックは早戻しされます。

メニューを開いている時に Rotary Control によってページを早送り、早戻しすることができます。

リアパネル
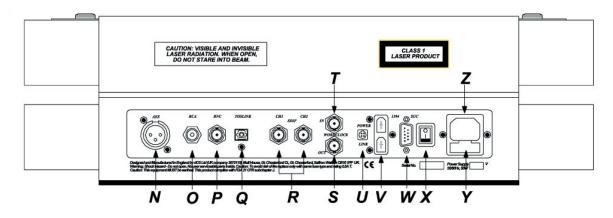
図５：dCS ラ･スカラ　リアパネル

リアパネルの名称

N　　AES/EBU デジタルアウトプット　XLR(M)
O&P　SPDIF デジタルアウトプット　RCA& BNC
Q　　SPDIF オプティカルアウトプット　TOSLINK
R　　SDIF インターフェイス　2 × BNC
S　　ワードクロックデジタルアウトプット　Wordclock digital Output
T　　ワードクロックデジタルインプット　Wordclock digital Input
U　　パワーリンク　Power Link
V　　IEEE1394 インターフェイス　2 × 6 ウェイ
W　　ソフトウェアアップデート用コネクター　SUC　9 ウェイ D タイプ
X　　パワースイッチ
Y　　AC 電源フューズホルダー
Z　　IEC 電源ケーブル用ソケット　Power

(N) AES/EBU　デジタル出力（AES）

AES 1 アウトプットは 44.1kS/s アンプルレートの AES/EBU デジタル信号を出力します。データフォーマットは AES3 です。SACD からのデータもダウンサンプリングし 16 ビット /44.1kS/s で出力できます。

デジタルオーディオ用またはRF用に設計された110Ωシールドされたケーブルをご使用下さい。シールドされていないケーブルでは、他の機器からの電波障害により正常に稼働しない場合があります。

(O),(P) SPDIF デジタル出力（BNC, RCA）

SPDIF 出力は 44.1kS/s のデジタル信号を出力します。BNC, RCA とも同一です。データフォーマットはIEC60958､一般にはSPDIFと云われます｡SACDからのデータもダウンサンプリングし16ビット /44.1kS/s で出力できます。

デジタルオーディオ用に設計された 75 Ωコアキシャル（同軸）ケーブルをご使用ください。デジタル用、またはオーディオ用ケーブルにはデジタル信号伝送には適合しない製品が販売されていますので、ご注意ください。そのようなケーブルのご使用はトラブルの原因ともなりかねません。特に、アクティブデジタルケーブル、LCR ボックスの付属したデジタルケーブルやオーディオケーブルのご使用に関しましては、販売店もしくは当社にご相談ください。トラブルの例が多く見られております。

重要：コピー禁止のフラッグがデータソース上にある場合には SPDIF アウトプットからデータを録音することはできません。

(Q) SPDIF オプティカル出力（**Toslink**）

オプティカルアウトプットは 44.1Ks/s のデジタル信号を光伝送で出力します。データフォーマットは IEC60958、一般には SPDIF と云われます。SACD からのデータもダウンサンプリングし 16 ビット /44.1kS/s で出力できます。

Toslink 出力にはデジタルオーディオ用に設計された Toslink 光ファイバーケーブルをご使用ください。ご使用の前にプラスティックカバーを外してください。

(R),(S) **SDIF** インターフェイス（**CH1**, **CH2**, **Wordclock Out**）

２系統のデータ出力 **CH1**，**CH2** と **Wordclock Out**（ワードクロック出力）から構成されています。すべてBNCコネクターです。インターフェイスは44.1kS/sデジタル信号を出力します。データフォーマットは SDIF-2 です。SACD からのデータもダウンサンプリングし 16 ビット /44.1kS/s で出力できます。

デジタルオーディオ用に設計された 75 Ωコアキシャル（同軸）ケーブルをご使用ください。デジタル用、またはオーディオ用ケーブルにはデジタル信号伝送には適合しない製品が販売されていますので、ご注意ください。そのようなケーブルのご使用はトラブルの原因ともなりかねません。特に、アクティブデジタルケーブル、LCR ボックスの付属したデジタルケーブルやオーディオケーブルのご使用に関しましては、販売店もしくは当社にご相談ください。トラブルの例が多く見られております。

重要： 3 本のケーブルが DAC に指示通り（CH1 は入力の CH 1 へ、CH2 → CH 2 Wordclock Out → Wordclock In）に正しく接続されていることをご確認の上ご使用ください。間違っている場合には、インターフェイスのトラブル、チャンネル間の反転をひきおこすことがあります。

再生中、**Wordclock Out** は 44.1kS/s で出力します。

(T) ワードクロック・デジタル入力（**Wordclock In**）

Wordclock In（ワードクロック入力）は 44.1kHz のワードクロックを受信します。この端子からの入力によって、本機その他接続する機器をマスタークロックにシンクロさせることができます。それによる恩恵は、オーディオ出力に有害なジッターを減少させることです。44.1kHz ワードクロックが接続されると本機は自動的にスレーブモードとなります。接続しロックされるまでの間、**WClk** インジケーターが点滅、その後点灯し、ロックされた状態を示します。

ワードクロックインターフェイスにはデータはありません。デジタル機器用に設計された 75 Ω同軸ケーブルをご使用ください。AC カップルのデジタルケーブルは適切ではありません。

(V) 1394 インターフェイス（**1394**）

dCS IEEE1394 は 6 ウェイ 1394 コネクターによって接続します。もしオーディオチェインに 8 機以上の機種が接続されている場合には、**Transmit** メニューによって本機を Inactive（休止）に設定することができます。（P.18 参照）

本機は DSD データを 2.822MS/s で２つある **1394** コネクターから発信します。正しい動作のために、DAC は本機の **Wordclock Out** から 44.1kHz の信号にロックされていなければなりません。（または、システムがマスタークロックによって 44.1kHz で作動していることが条件です。）付属の 1.8m IEEE1394 ケーブルと BNC ケーブルをご使用になることをお進めします。インターフェイスが作動状態に入ると **1394** インジケーターが点灯します。なお付属のコネクターはグランド部分など本機にしっかりと接続されるように設計されています。一般の 1394 コネクターでは不具合が発生した事例もありますので、その場合には付属のコネクターで再確認なさることをお願いいたします。

重要：両方の 1394 コネクターを同じ DAC や他の機器に同時に接続しないこと。インターフェイスはエンドレスのループになり、作動しません。

(U) パワーリンク（**Power Link**）

リンクケーブルで他の dCS 機器と接続します。それによって **Power**（パワー）ボタンを一つ押すだけで、またはリモートコントロールから指示することによって、機器すべてをオン、スタンドバイ、またはオフにできるのです。dCS よりリンクケーブルが用意されております。

(W) ソフトウェアアップグレードコネクター（**SUC**）

これは新しいソフトウェアをラ･スカラにロードするために dCS サービス代理店によって使用されるべきものです。

重要：SUC コネクターにはいかなる機器も接続しないでください。ラ･スカラのみでなく、接続された機器の両方を破損しかねません。ラ･スカラは PC を接続して動作しないでください。この重要警告を遵守しない場合。保証は保証期間であっても受けられませんし、ご使用機器に悪影響をも与えてしまいます。くれぐれもご注意ください。

(X) パワースイッチ

パワースイッチは本機をパワーサプライから完全に隔離します。通常は On（｜）の位置にしておいてご使用ください。長時間ご使用しないとき、激しい落雷の恐れがある場合には Off（○）にセットしてください。

(Z) IEC 電源入力（**Power**）

３ピン IEC タイプ電源ケーブルをご使用ください。本機は 100v/50,60Hz の電源仕様です。

(Y) AC フューズ

20　×　5mm 0.5A フューズを使用してください。

追記

リアパネルディスプレイは本機の次の情報を表示します。

・製造者名、住所
・AC 電圧 , 周波数設定　定格出力
・モデル名：dCS La Scala
・単純化されたシリアル番号
・PSE 規格適合シール

ソフトウェアアップデート、電話でのサポートには正面ディスプレイに表示されるフルシリアル番号が必要です。

リモートコントロール

dCS ヴェルディとラ･スカラに付属のリモートコントローラーは dCS エルガープラス、ディーリアス､パーセルの一部の機能をコントロールすることが出来ます。これらのボタンはリモートコントローラーの上の青文字あるいは記号によって識別できます。
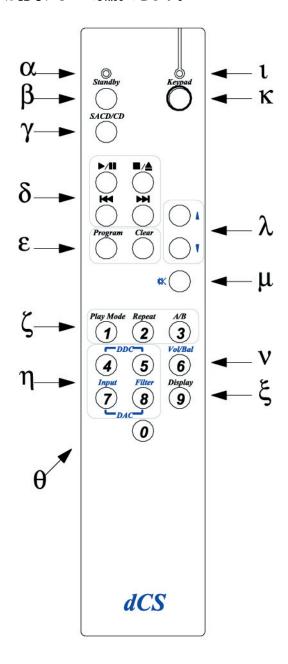
図6：リモートトコントロール

(α) 青色 LED
リモートコントローラーが DAC や DD コンバーターへのコマンドを送るとき、青色 LED が点滅します。

(β) スタンドバイボタン（Standby）
通常 **Stanbay**（スタンバイ）ボタンを押すとラ･スカラをスタンバイモードに設定します。再度押すと通常の稼動状態に戻ります。

Keypad ボタン(κ)を押して白色 LED(ι)が点灯している間に Standby ボタンを押すと、リモートコントローラーの効く範囲にある dCS 製全機器のスタンバイモードの On/Off を切り替えます。

(γ) SACD/CD ボタン（SACD/CD）
ハイブリッドディスクを再生するとき、このボタンを押して SACD レイヤーあるいは通常の CD レイヤーのいずれかを選択します。再生されたレイヤーは Status インジケーターで表示されます。ディスクがハイブリッドディスクではない場合、このボタンは機能しません。

(δ) トランスポート・コントロール（▶/❚❚, ■/⏏, ⏮, ⏭）
Play/Pause ボタン、Stop/Eject ボタン、Previous Track ボタン、Next Track ボタンは本機のフロントパネルのボタンと同じように機能します。

白色 LED（ι）が点灯しているとき、再生されたディスクにインデックスがあれば、Previous Track ボタン、Next Track で直前あるいは次のトラックのインデックスにジャンプします。

(ε) プログラム／クリアボタン（Program/Clear）
これらの 2 つのボタンは、再生するトラック順を設定、変更する際に使用します。
● Program ボタンを押して PROG モードに入り、次に白色 LED(ι) が点灯している間に 0 〜 9 のボタンで最初のトラックナンバーを入力する。
この操作を繰り返して、最大 31 トラックまでさらにトラックをプログラムします。
● Clear ボタンを押して、最後にプログラムしたトラックから順に消去する。

(ζ) モードコントロールボタン（Play Mode, Repeat, A/B）
● Play Mode ボタンを繰り返し押すと、3 つのモードを繰り返し表示する。
・Continue　ディスクの最初から最後まで連続して再生し、その後停止します。CONT インジケーターが点灯します。
・Program　プログラムした順にトラックを再生し、その後停止します。PROG インジケーターが点灯します。
・Shuffle　ディスクの全トラックをランダムに再生し、その後停止します。RAND インジケーターが点灯します。

● Repeat ボタンを繰り返し押すと、3 つのモードを切り替える。
・Rept All　Play Mode に応じて、全トラックを再生します。Continuous モードでは、全トラックを最初から最後まで繰り返し再生します。Program モードでは、プログラムした順にトラックを繰り返し再生します。Shuffle モードでは、全トラックをランダムに再生します。
・Rept Trk　再生中のトラックを繰り返し再生します。
・Rept Off　通常の再生モードに戻ります。

● あるトラックの一部分を選択して繰り返し再生するには、まずそのトラックを再生し、繰り返し再生したい部分の開始点で A-B ボタンを押すと、ディする例には B が点滅した状態で（例えば AB 0:20）表示します。そのまま再生が続きますので、繰り返し再生したい部分の終了点（例えば 10 秒後）に到達したら、再度 A-B ボタンを押します。B の点滅が止まり、指定した開始点に戻って、その後終了点までの部分を連続的に繰り返し再生します。新たな開始点と終了点を選択するには、新たな開始点と新たな終了点で再度 A-B ボタンを押します。Repeat ボタンで Rept Off にすると、リピートを停止します。

(η) インプット／フィルターボタン（Input/Filter）
dCS DD コンバーター（4, 5 ボタン）または DAC（7, 8 ボタン）のいずれかを使用している場合、これらに対して選択した Input（入力）と Filter（フィルター）の設定を変更します。これらのボタンはラ･スカラにはご使用になれません。繰り返しそのボタンを押して選択肢を切り替えます。

(θ) 0～9 ボタン（**0-9**）

数字のついた 10 個のボタンは、白色 LED が点灯しているとき、トラックナンバーを入力するために使用します。これらのボタンのほとんどが他の機能を有しています。リモートコントローラーをキーパッドモードに設定するには次のいずれかを行います。

・**Keypad** ボタンを押す。
・**0** ボタンを押す。
・白色 LED が点灯するまで **1** ～ **9** のボタンの内 1 つを数秒間押し続ける。

5 秒後に白色 LED が消え、リモートトコントローラーは通常の動作に戻ります。白色 LED が点灯している間にナンバーボタンを押すと、更に 5 秒間白色 LED が点灯します。

(ι) 白色 LED

テンキーと特定の選択機能が操作可能であることを示すために白色 LED が点灯します。

(κ) キーパッドボタン (**Keypad**)

Keypad ボタンはリモートコントローラーの Keypad モードの On/Off を切り替えます。

(λ) アップ／ダウンボタン (**↑** / **↓**)

↑ / **↓** ボタンで dCS DAC のボリューム設定を変更します。

(ν) ボリューム／バランスボタン（**Vol/Bal**）

Vol（ボリューム）／ **Bal**（バランス）ボタンを押して、dCS DAC をバランスモードにします。**↑** / **↓** ボタンでバランス調整します。バランス調整が行われなければ、5 秒後にバランスモードはタイムアウトになります。

(λ) ,(ν) のボタンはラ･スカラには機能しません。

(μ) ミュート（**Mute**）

dCS DAC を **Mute**（ミュート）にする、**Mute** 解除するときに押します。

このボタンはラ･スカラには機能しません。

(ξ) ディスプレイボタン (**Display**)

Display ボタンを押して、ディスプレイ選択肢を切り替えます。

・ディスクタイトル（テキストを含むディスクのみ）
・アーティスト名（テキストを含むディスクのみ）
・トラックナンバーと経過時間

ディスプレイモード・インジケーターは何が表示されているかを示します。

メンテナンス

dCS のオーディオ機器は特に定期的なメンテナンスを必要としません。
全てのサービスおよびアップグレードは dCS 社または当社のみが行います。

ヒューズの交換
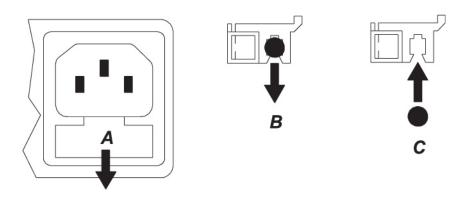
図７：ヒューズの交換

電源ソケットの下にあるヒューズ･ホルダー内にヒューズがあります。ヒューズが飛んだ場合、ヒューズが飛ぶような要因となる障害がないか、まず確認してください。もし障害があるようであれば、まずその障害を取り除いてください。もう障害がないと考えられた段階でヒューズを交換し、再度電源を入れてみてください。
(20 × 5mm 0.5A T HRC タイプ)

もし連続して飛ぶようであれば、不具合の可能性がありますので直ちに使用を中止し、お買いあげのオーディオ販売店か当社までご連絡下さい。

重要：ヒューズが飛んだときは、必ず同じタイプの物と交換してください。異なるタイプの物と交換することによって製品にダメージを与えたり、引火したり、電気ショックの原因になったりすることがあります。このような場合保証の対象とはなりませんので、ご注意下さい。

ヒューズを交換する

ヒューズを交換するとき、まず電源ケーブルを抜き、小型のマイナスドライバーでヒューズ･ホルダーのタブを引っ張り出します。ヒューズ・ホルダーのクリップから飛んだヒューズを押し出し、新しいものに交換してください。ヒューズ・ホルダーを本機にカチッと音がするように戻してください。スペアのヒューズは製品に 2 個同梱されています。

重要：ヒューズを交換する前に電源を切り、電源ケーブルを抜いてから行ってください。

搬送時の取扱について

搬送時のドライブ・メカニズム保護のために、ラ･スカラをお届けする際には輸送ネジを締め、トップグラス・プレートを取り外した状態で梱包、納品させていただいております。

● 設置の際には図８の通り、赤色のドライブ固定ネジを取り外し、ラバーマットとトップグラス・プレートを取り付けた上でご使用下さい。
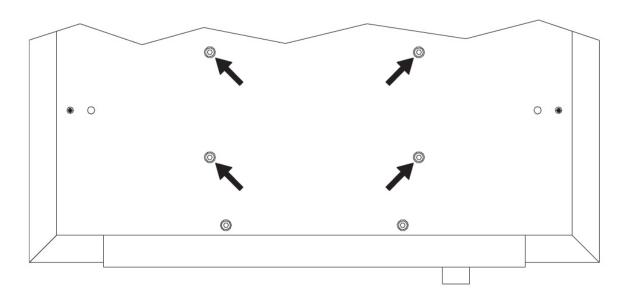
図８：ラ･スカラの上部から見た輸送ネジの位置

● トップパネルには内部のドライブ・メカニズムがネジで４箇所止められています。これらを付属の 3mm 六角レンチで取り外してください。

重要：この輸送ネジは再度搬送する機械に必要ですので、大切に保管してください。

重要：搬送する際には、ドライブ固定ネジを必ず締めてください。ただし、その際にはこのネジを固く締めすぎないようにご注意下さい。

トップグラス・プレートの取り付け

- ラバーマットを袋から取り出し、4 箇所のネジアナに会わせて本体上部に乗せます。
- トップグラス･プレートを袋から取り出します。トップグラス･プレートの裏面に保護膜が貼ってありますが、そのままご使用ください。
- dCS のロゴマークがトップグラス・プレートの角にあります。これが手前左側に来るようにして、各角、中心をあわせて本体上部に設置します。(図９参照)
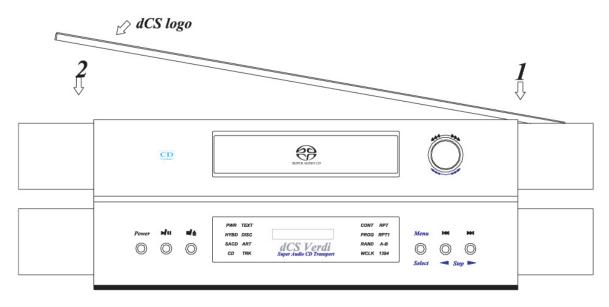
図９：トップグラス・プレートを乗せる

- 付属のプラスチック・ワッシャーと留めネジを 4 つのネジ穴に入れ、まず 4 箇所均等に手で回して締めます。指で締められなくなった時点で、付属の 4mm 六角レンチを使用して増し締めを行いますが、締め付けは六角レンチの回転で 1/4 回転以上締めてはなりません。(図１０参照)
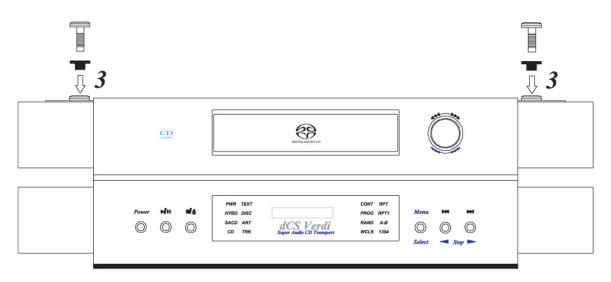
図１０：トップグラス・プレートをネジ止めする

注意：一カ所を締め付けすぎたり、全体を固く締め付けすぎると、ラバーマットを押さえ込みすぎてしまい、ダンピング材としての目的が殺がれてしまいますのでご注意下さい。

リモートコントローラーの電池交換

安全上の理由から、3 個の電池を別々に梱包して出荷しています。電池を交換する際は、適切なもの（単四アルカリ電池）と交換してください。

電池カバーをはずす

● リモートコントローラーを裏返し、出荷時に同梱されている付属のドライバーを使用して、カバーを留めている２つのネジを丁寧にはずします。（図１１参照）このときネジ穴にダメージを与える可能性がありますので、通常のプラスドライバーは決して使用しないでください。
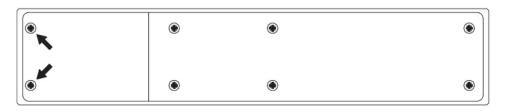
図１１：リモートコントローラーの電池カバー

電池を取り出す

● 電池の＋側をバネの方へ押し、外側に引き出してバッテリーボックスから使用し終わった電池を取り出します。取り出しにくい場合は、小さな鍵あるいはドライバーを使うと簡単に取り出せます。

新しい電池を入れる

● フラットな - 側をホルダーのバネについた方へ押し、スロットに正しく入れます。極性については電池ホルダーに表示してあります。常に３このバッテリー全てを同時に交換するようにしてください。
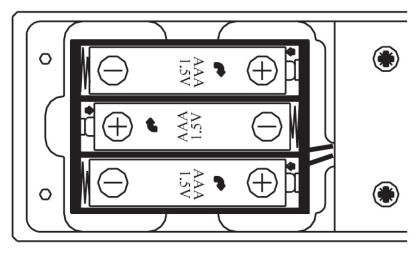
図１２：リモートコントローラーの電池交換

重要：電池が正しい極性で装着されていることを確認してください。もし誤って装着した場合、リモートコントローラーにダメージを与えることがあります。また電池が液漏れを起こした場合なども不具合の原因になります。これらの場合は保証の対象外となりますので、ご注意下さい。

● 電池３個を電池ホルダーに装着したら、電池ボックスにカバーをはめ込み、カバーのネジ穴がくぼんでいる面が外側になっていることを確認し、２つのネジで締めます。このとき強く締めすぎないようにご注意下さい。

仕様

ドライブメカニズム	デュアルレーザー、2ch SACD/CD コンバチブル
メカニズム・マウンティング	振動吸収弾性サスペンション採用
ローディング方式	フロント・ローディング
クロック精度	±3ppm（出荷時）
デジタル出力	AES/EBU（XLR）1 系統 SPDIF（RCA）1 系統 SPDIF（BNC）1 系統 TOS　1 系統 SPDI-2F（BNC）1 系統
ワードクロック入力	BNC　1 系統
ワードクロック出力	BNC　1 系統
双方向デジタル インターフェイス	IEEE1394　2 系統
電源電圧	100V　50/60Hz
最大消費電力	50W
最大外形寸法	W 461 × H 136 × D 434 mm
重量	14.0kg

※本機の仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

問い合わせ先

株式会社 太陽インターナショナル

〒 103-0027

東京都中央区日本橋 2-12-9 日本橋グレイス 1F

TEL：　03-6225-2777（代表）

　　　03-6225-2779（サービス課）

FAX：　03-6225-2778

メールアドレス：　info@taiyo-international.com

　　　　　　　　support@taiyo-international.com

ホームページ：　http://www.taiyo-international.com

07-15-2005